

43 嚶鳴寮から国際嚶鳴館へ

2002（平成14）年、嚶鳴（おうめい）寮の老朽化と、増加する外国人留学生に対応するため、日本人学生と留学生が共同生活を営む混住型施設として、国際嚶鳴館が竣工しました。定員は約300名、居室は全て個室（バス・トイレ・エアコン付）で、3棟のうち1棟は9階建ての高層建築となっています。

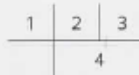
これにともなって取り壊された嚶鳴寮は、1961（昭和36）年に完成したのですが、その系譜は大正時代にまでさかのぼることができます。

嚶鳴寮は、1920（大正9）年に創立された名古屋高等商業学校の構内（現名市大川澄キャンパス）にあった学生寮をその起源としています。嚶鳴とは、鳥が友を求めて鳴きかわすさまをいい（『詩経』小雅の伐木の詩による）、江戸時代の儒学者で、米沢藩主上杉鷹山の師としても知られる、細井平洲（愛知県東海市出身）が江戸に開いた私塾「嚶鳴館」からその名がとられたともいわれています。

戦後の1949年、名高商は新制名古屋大学に包括されて、経済学部の母体となりました（桜山キャンパス）。同時に嚶鳴寮も、そのまま名大の学生寮として引き継がれます。この当時は、学生の約15%が寮生活をしていました。

そして1959年、名古屋市が東山キャンパスに新築した校舎と桜山キャンパスを交換する方式で経済学部の移転が行われると、国際嚶鳴館のある昭和区高峰町の敷地に新しい学生寮が新築され、嚶鳴寮の名も継承されました。

大学文書資料室では、嚶鳴寮に関する資料をほとんど所蔵していません。このままでは、その歴史が風化してしまいかねず、本格的な資料の収集が急務であると考えています。すでに廃止された、豊川分校の振風寮、安城市の碧明寮、瑞穂分校の旧八高学寮などもふくめた、名大学生寮に関係する資料の情報をお持ちの方は、どんな些細なことでもぜひ大学文書資料室までご一報ください。



- 1 名高商の嚶鳴寮（大正時代）
- 2 1955年頃の嚶鳴寮食堂
- 3 1991年頃の嚶鳴寮
- 4 国際嚶鳴館

